

うづみ火

長谷川時雨

青空文庫

兩國といへばにぎわ敷所しきころと聞ゆれどこゝ二洲橋畔けうはんのやゝ上手かみて
 御藏橋みくら近く、一代の富廣とみひろき庭廣き家々もみちこほるゝ富人ふうじんの構
 えと、昔のおもかげ残る武家の邸つゞきとの片側町かたかはまち、時折車の
 音の聞ゆるばかり、春は回向院えかうゐんの角力すまふの太鼓夢の中に聞てきい、夏
 は富士筑波つくばの水彩畫を天てんねむの後景として、見あかぬ住居すまゐさりと
 て向島根岸の如き不自由は無なく、娘が望のぞみかなひ、かの殿の内君とな
 らば向河岸に隱宅いんたくた立てゝと望はのぞむ、あながち河向ひの唄女うたひめらが
 母親達のみの夢想にもあらぬぞかし。

洗出あらひだしの木目の立た高たつからぬ塀にかゝりて、盛さかりはさぞと思は
 るゝ櫻の太木、枝ふりといゝ物好な一ひとかまへ構、門の折戸片々いつ

も内より開かれて、づうと玄關迄御影の敷石、ゑんなし椽無の二枚障子
いつも白う、こけみ苔井のきわの柿の木に唯一ツ、ひかる光程じゆくした實の
重さうに見へる、右の方は萩垣はぎかきにしきりて茶庭ら敷折々琴の昔
のもるゝもゆかし。

安井別宅との門札もんざつ、扱は本町のかど通掛りの人もうなづく物もの
持もち、家督は子息にゆづりて此處には半日の頃もふけし末娘、名
さへ愛とよぶのと二人先代よりの持もちつたへ傳家藏はおろか、近頃手
に入し無比の珍品、名畫も此娘これの爲には者數ものかずならぬ秘藏、生うまれ
附つきとはいへおとなし過すぎるとは學校に通ひし頃も、今琴ことの稽古にて
も、近所の娘が小言ふびんますの引合は何時も此家こちらの御嬢様との噂聞に附、
尚々父親の不憫増なるべし。

いつもはお庭に松葉まつばもは入時分秋頃から御隠居様のはさみの音
 も聞えず、どうかなされた事かと拾八九の赤ら顔紫めりんすと黒
 の片側帶氣にしつゝめづら敷車しくるま頼たのに來たお三をつかまえて口も八
 町手も八町走るさすが車屋の女房の立咄たちばなし、どうしてく御庭
 いぢり所か御本宅にては御取込で御目出度けれど、此方様こちらさまでは
 秋からかけて嬢様の御病氣、御隠居様の御心配それはく實に御お
 氣きの毒でならぬ、今年は菊も好出來よくたけれど御客も遊ばさぬ位、
 御茶おちやの會御道具の會、随分忙敷時せはしいときなれどまるで、火が消たやう、
 私らも樂すぎて勿體無早く全快遊おなをりあそばすやうにと祈つては居をけれ
 共、段々御やつれなされてと常にも似ず凋しほるゝに、それはく知
 ぬ事とて御見舞もせなむだがさぞまあ旦那様だんなさまは御心配、御可哀

想に早く御全快おさせもふし度、そして又御本宅の御取込とは御
噂の有た奥様の御妹子が御方附になるの、彼宅は御目出度事さぞ
此宅の旦那様もどんなにか御うらやま敷だろふねとの同情、ほむ
に御隠居様も御出掛遊ばすのであつた、急で御頼申升よ御藥取に
らねばとかけ行に、女房も無言塵除はづして金紋の車念入
に拂、あづかりの前掛けてうちん取揃えれば亭主の仕度も出来ぬ、
今迄は無沙汰したのが面目無何と御見舞言た物やらと、獨言引
出したとたんがらくと淺草の市歸か勢よく五六臺、前後し
て通ぬけぬ。

風は寒が好天氣淺草の觀音の市も大當、川蒸汽の汽笛もた
えずひゞく、年の暮近し世間は何と無ざわめきて今日はいぬの日、

明日はねの日とりの日、扱も嫁入ぎたの多おゝいこと事 今宵本宅の嫁の
 妹折枝をりえとて甘を一越た此間迄寄宿舎養そだち、早くから姉夫婦に引取
 れて居たので、本家の娘として此處の孫こどうとしての嫁入、進まぬな
 がら是も義理と、ひる前に隱居も古銅の花瓶と、二幅對の箱と合
 乗でゆかれた跡入あといりかはり替に、昨日花屋から來た松の枝小僧が取に
 くる、御上おうへの分下ぶんしたの分とわけた御膳籠ごぜんかごもは入附添の手代より目
 録もそれゝ行渡り役目すめば御祝酒のりおなごども女子供にざれかゝ
 り大聲立て、ばあやにゝられこそゝといでゆきしあと出行跡、ばあやも
 跡の事心附て自慢のかね黒ゝと大奥様が形見かたみの鼠小紋三紋附着
 ておよろこびやら、皆々の御禮も兼て。

さ今の内お風呂ふろにでもおは入いりなさつて少し御庭でも御覽なさい

まし、おやすみ遊ばしての内私が御附申てますから升柄と、看護婦かはりに替しは兼かねとよびて年も同十七の氣に入、差よつてほつれ毛をかきあぐればほろろと涙なみだろきまくら白枕に毛布に、お嬢様御察申升かねは口惜てく彼方の奥様に喰附てやりとう御座升ございます、ばあやさんもばあやさんだ貴女の敵におよろこびにゆくなむて、義理だつても私口惜貴女くはなぜ、御教申たやうに御父様や御兄様におつしやらなかつたので御座升よお嬢様、唯心で涙をこぼしていらつしやる柄猶御病氣も重り升わと、主人ながら友ともだち達共思ふ仲よしのかうは言た物の、言過て病にさわりはせぬかと今更冷汗色をかえての心配顔、嬉うれ敷しいに附我身のかひ無は堪たえ兼かねて夜着に顔差入て忍なき、兼が進る藥に息をついて兼やもう御言おで無よ、此様な病

になつた爲父様と姉様の御仲も丸く美敷^{うつくしく}すんだのは、家の爲
 によるこんでいるは私、靜夫様は肺病だからとて死^きと定つてい
 ではなしと、言はつて下すつた物の先様でもお一人子御兩親の御^ご
 不服^{ふふく}なのは、あたり前だわね、ちいつともうらむ事は無ねえ兼、
 よし折枝^{をりえ}さんがゆかぬにした所がどうでよそからおもらひ遊ばす
 のだ物、御姉様の御望^{おのぞみ}をかなへた方がねそうであらふだが今朝
 も父様が悲^{かなしそふ}想^ななお顔を遊ばして、私しや自分の慾はあきらめ
 ているがせつ角父様もゆるして下すつて、だが父様はどうして靜
 夫様と御知りなすつたのだろふ、兼知^{かねち}て居て、知ている所か私柄
 と、いやまて思は思^{うん}を生で心經の高ぶつて居今、先何事^{まづ}も胸にと、
 ほんに承はれば兼がわるう御座升だが嬢様御結婚はなさらず共御

心に替り無^{なく}ば、お嬉しう御座ませう静夫様も決て貴女をおわすれは、これ覺^{おぼえ}がお有でせうと取出す手箱の内香^{にほ}わせし白ばら一輪、中に深雪^みつもる夜の明星かとばかり紫匂ふダイヤモンド、此指輪^{ゆびわ}は彼人の手に日頃光しそれよ白ばらは二人が紀念^{きねん}の、さゝやきし其時の息やこもるなつかしやとばかりつく息も苦氣^{くるしげ}なり。

兼^{かね}が涙ながら來し頃は早暮て、七間間口に並びしてふちん門^{もん}並^{つぎあひ}の附合も廣く、此處一町はやみの夜ならず金^{きん}屏^{びやう}の松盛ふる色を示前に支配人の立つ居^{たち}つ、何の奥様一の忠義振かと腹は立どさすが襟^{えり}かき合せ店に奥に二度三度心ならずもよろこび述て扨嬢様よりと、包^{つみ}ほどけば、父親の好戀^{このみ}人の意匠、おもとの實^み七つ、四分と五分の無疵^{むきず}の珊瑚、ゑりにゑりし花^{はな}筭^{うがい}、今宵の縁女と

なる可、兄より祝物、それを贈心おくまごころはと父親も主もばあやも顔見合

すれば兼かねは堪かねて涙はらくこぼしつゝ外にも一品花嫁はなよめには

幸に見られねど盃受く靜夫はわなくと、打ふるひぬ、つき上る
くるしきおもひ

苦敷思も涙も共に唯一息眠つぶりてのみ込ば、又盃は嫁に　り

ぬきらりと取手とりてに光物靜夫が目に入し時、花笄の片々するくと

ぬけて、かた袖仲人が取つくるふひまも無、盃臺のわきにみぢん

となりておもとの實は、ころくと靜夫しづをが袴の前にころがりぬ。

祝儀しゅうぎすむやそこく定紋の車幾臺大川端の家にとむかへり、あ

われ病人やむひとやあつしくなりにしがあたゝかき息こもるうばらの園その

うやさまよう、細き息の通ふばかりとや、にぎしき家の外にも淋さ

敷びしきこゝの庭木にも夜よひとよ一夜木枯の吹あれて、あくるあしたよりあ

われ父翁の面おもやせめ瘦目にたちぬ。

「うづみ火」のこと

陸中國釜石鑛山内水橋康子として懸賞に應募し、明治四十三年十一月號の『女學世界第一卷第十五號定期増刊「磯ちどり」才媛詞藻冬の卷・小説』の初頭に掲載され特賞（賞金十圓）を得、又主幹松原二十三階堂（岩五郎）氏に激勵鞭撻の書簡を送らる。當時病後靜養に釜石鑛山所長横山氏家に遊行中の事なり。二十三歳の秋、處女作。未だ「しぐれ女」のペンネームを使用せず。

青空文庫情報

底本：「時代の娘」興亞日本社

1941（昭和16）年10月22日発行

1941（昭和16）年11月26日再版

初出：「女學世界第一卷第十五號定期増刊「磯ちどり」才媛詞藻
冬の巻・小説」

1910（明治43）年11月号

※底本では表題の下に、「（處女作）」と入っています。

入力：門田裕志

校正：野口英司

2010年2月18日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

うづみ火

長谷川時雨

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>